

道徳科 授業デザインシート

令和7年10月24日 第5校時 2年

1 主題名 ほかの人の立場 [B(9) 相互理解、寛容]

2 教材名 「他人の靴を履いてみる」(出典:「あすを生きる2」日本文教出版)

3 本授業に込めた教師の願い

(1) 道徳的価値について(学習指導要領との関わり)

相互理解、寛容とは、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくことである。

中学生の時期は、新たな環境や出会いの中で、見方や考え方の多様性を実感することが多くなる。自分と相手、互いの考えや意見の差異を理解しつつも、それを伝えることの大切さを感じたり、相手の立場に立ってその考えや意見を聴いたりすることで、真の相互理解が可能になることを経験していく時期といえる。

その一方で、学年が上がるにつれ、傷付くことを恐れて自分の世界を閉じようとする傾向も見えてくる。考え方の違いからくる友人関係の摩擦によって自分が悩むことのないよう、細心の注意をもって相手との衝突を避けるのである。人と適切な距離感を保つことは大切だが、それを自分が傷付かない「立ち回り方」として考えてしまうがゆえに、生徒たちが織りなす人間関係は、他者への過剰な同調や現実逃避という歪み、あるいは自分さえよければよいという自己中心的思考や、気の合わない者とは付き合わないという視野の偏りといった危うさをはらんでいる。

そこで、自分とは考えの合わない人がいた時に、その人とどのように関わっていったらよいか、考えの合わない人と関わるのがどうして大切なのかを考え話し合うことを通して、人間が相互に個性や立場を尊重することが、自分の人生にとってどのような価値をもつのか考えるとともに、相手や場面が変わっても、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶことが、人間としての成長に役立つことを理解できるようにすることが大切である。

(2) 本授業に至るまでの生徒の学びに関する気付き

本学級の生徒は、

省略

これらのことから、本授業を通してほかの人の立場に立つ意義について考え、多様な視点から物事を見ることで、自分の世界や今後の人生が明るくなっていくことを自覚し、意見の異なる人に対しても自分から理解しようと努力する態度を育てたい。

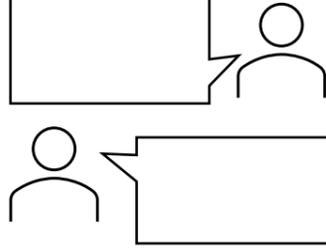
(3) 教材の概要とよさ

本教材では、部活動の中で後輩の指導方法を巡って意見が対立するスバルとダンの姿を描いている。相談を受けたメイは、自分が読んでいた本の中の「他人の靴を履いてみる」という言葉を紹介する。他者の立場に立つことを、衝突やトラブルが防げるという消極的な側面だけでなく、自分の世界が広がるという積極的な側面からも考えさせられる教材である。本教材を活用し、多様な考えの人と向き合い、関わっていくことのよさについて、多面的・多角的に考える活動を通して、互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っているいろいろなものの見方や考え方があることを理解しようと努力する態度を育成したい。

自分とは考え方の合わない周囲の人との関わり方を導入の活動で想起させ、その関わり方の難しさを共有することで、本時のめあてに対する目的意識を高めることができる。また、意見が対立したスバルとダンが、今後も同じ部活動で良好な関係を築き上げていくための言葉がけを考えることで、相手の立場や意見を理解し、歩み寄ることの大切さについて考えを深めることができる。その際、過去に意見の対立が起こった日常の場面を思い起こさせ、本当に考えの合わない人に心の底から向き合い、相手を理解しようと歩み寄ることができるのか問い返すことで、歩み寄ることの難しさについて自分事として理解できるようにする。さらに、自分と考え方の合わない人に対して「関わる／関わらない」について心情メーターを基に話し合うことで、多様な考えの人と向き合い、関わっていくことのよさについて多面的・多角的に考えを深めることができる。

本授業において、登場人物の心情やおかれた状況などの情報を生徒に示してから範読することで、状況の理解を促し、教材の読み取り中心の授業にならないようにする。範読後には、教材中の「他人の靴」の意味を全体でおさえることで、考えの合わない人に歩み寄ることの居心地の悪さや、歩み寄るためには努力が必要であること等を前提とした話し合いができるようにする。中心発問の前には、心情メーターで自らの考えを可視化しそれを基に話し合うことで、「関わる／関わらない」と価値判断した互いの考え方や感じ方の違いに触れ、他者理解を深められるようにする。中心発問では、意見の合わない人と関わっていくことのよさについて話し合ったり、全体で共有したりすることで、異なる立場の意見に対して寛容に接することの価値理解を深め、実際に自分から理解しようと努力する態度を育成できるようにする。

<板書計画>

めあて 自分と考え方や立場の異なる人と関わる時に、 どのような心構えが必要だろう	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード
	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード
「他人の靴」  ・~~~~~ ・~~~~~	○自分と考え方の合わない人がいたとき 関わる 関わらない ・~~~~~ ・~~~~~ ・~~~~~ ・~~~~~			
	○どんな風に言えばよかった? 			
状況わたし	◎多様な考えの人と向き合い、 関わっていくことのよさ ・~~~~~ ・~~~~~ ・~~~~~			

4 本時の展開

(1) ねらい 他者の立場に立つことの意義について考える活動を通して、意見や立場の異なる人に対しても自分から理解しようと努力する態度を育成する。

(2) 準備 教師用タブレット、生徒用タブレット、付箋、ホワイトボード8枚、マーカー

(3) 展開

	視点1 (10分) めあてを関心や問題意識、 必要感をもって理解したか。	視点3 (30分) グループやクラス全体の対話を通して 協働して問題解決をしているか。	◎ — 中心発問 ◇ — 補助発問	視点5 (10分) この時間の学びが自分にとって 意味や価値があったと自覚しているか。
主な 学習活動	○自分と考え方の合わない友達との関わり方について事前のアンケートを基に話し合い、考え方の合わない人と関わる難しさを共有する。(人間理解)	○登場人物の二人が、今後歩み寄っていくための言葉がけや意識するとよいことを、生徒の日常生活でのトラブルと重ねて考え、他者の立場に立つことが難しいことを再認識する。(人間理解)	○対立を避け、自分の人間関係を固定化させてしまうことについて話し合い、困難ではあるが、ほかの人の立場に立って多様な視点で物事を見ていくことの大切さについて考える。(他者理解・価値理解)	○授業を通して深めた考えを基に、めあてについて再度考える。(価値理解)
発問	・自分と考え方の合わない人とは、どのように関わっていますか。	・今後も同じ部活で活動するスバルとダンは自分の意見を言った後、どんな風に言えばよかったのだろう。 ・自分と考え方の合わない人がいたときに、どのように関わるようにしていますか。	◎多様な考えの人と向き合い、関わっていくことにはどんなよさがあると思いますか。 ◇それぞれの班で多く出ている言葉や似た印象の言葉にはどんなものがあるだろう。	・自分と考え方や立場の異なる人と関わるときに、どのような心構えが必要でしょうか。 ・今日の授業を振り返りましょう。
生徒の意識	<ul style="list-style-type: none"> 自分と考え方が合わない友達はあるな。 意見が合わなくてイライラしたことがあるな。 自分は、自分と考え方が合わない友達とは距離を取ったり、深くは関わらないようにしたりしているな。 考え方は合わないけれど、部活で一緒に関わらなくてはいけなくて、困った経験があるな。 考え方が合わない人とは、揉め事や喧嘩になるかもしれないから関わりたくないな。 自分と考え方の合わない友達と関わるときは、よく話を聞くようにしているな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【めあて】 自分と考え方や立場の異なる人と関わる時に、どのような心構えが必要だろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> たしかに、1年生が怪我をしたら困るから、そういう声かけも大切だね。 厳しく言い過ぎるのも後輩にとってはきついかもしれないな。 同じチームでこれからもプレーしていくのだから、お互いのことを理解しあうことが大切だな。 頭ではわかっているけど、実際はそんなこと言えないな。 関わらなければいけないから、その場を丸く収めたくて言うかもしれないな。 相手の言うことも分かるから、お互いに気持ちよく過ごせるように、相手の言い分を聞いて譲ったり、自分の気持ちも伝えたりするかもしれないな。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と同じ考えの人とだけ関わるのは、すごく楽だけど、自分の考えが狭くなりそうだな。 喧嘩やトラブルを避けたいから、考えの合わない人とはあまり関わりたくない。 自分とは考えの違う人と関わることで、自分の考え方が間違っているところにも気付くことができそうだな。 ほかの人の立場に立って考えることができるようになると、トラブルが減って、色々な考えの人とよい関係を築くことができそうだな。 「自分の世界が広がる」ってことかな。 相手の気持ちや立場を考えられるようになるかもしれないな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】 ほかの人の立場に立つことで自分の考えが広がることに気づき、今後の生活へ生かしていこうとする態度を示している。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考え方にとらわれすぎて、相手を受け入れられなかったから、今までイライラしていたのかもしれないと思った。 意見が対立した友達と関わることで自分の視野が広がっていくことが分かった。 今までは、考え方が合わない人とは深く関わらなければいいだけだと思っていたけれど、相手の立場に立って、その人の意見を深く考えてみることで、自分の考え方が広がっていくのだと感じた。 これからは、自分の考え方も大切にしつつ、相手の立場に立って相手の考え方にも寄り添っていこうと思った。 相手の考え方や意見もよく聞きながら、自分の考えを丁寧に伝えていけるようになりたい。 意見が対立した人とは関わりたくないなと思っていたけれど、自分の成長のために関わっていきたいと思った。
教師の手立て 関わり	<ul style="list-style-type: none"> 意見や立場の異なる人と関わる時の自身の経験を想起させ、関わりをもつ難しさを共有できるようにする。 登場人物の心情やおかれた状況等の情報を生徒に示してから範読することで、状況の理解を促し、教材の読み取り中心の授業にならないようにする。 範読後、教材中の「他人の靴」の意味を全体でおさえておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 二人の会話は単なる喧嘩ではなく、「後輩のため」という、目的を同じくした方向性の違いであることをおさえる。 生徒が考えたスバルやダンのセリフに対し、本当に同じように言えるか問い返すことで、道徳的価値の実現の難しさについて再認識できるようにする。 心情メーターで自らの考えを可視化し、それを基に話し合うことで、「関わる／関わらない」と価値判断した互いの考え方や感じ方の違いに触れ、他者理解を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人と関わっていくことのよさについて未来思考で考えることで、自分の世界や今後の人生が明るくなっていくことを自覚できるようにする。 「多様な人と関わるよさ」をまとめた各班のホワイトボードを全体で共有し、共通して書かれている内容をキーワード化することで、価値理解が深まるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の終末で再度、めあてについて考えることで、本時を通して変容した自分の考えや普段の生活における自分自身の言動を振り返って考えをまとめ、自分と考え方や立場の異なる人との関わる時の心構えについて、自分なりの納得解が得られるようにする。